TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神の御意思：解放か依存か（試練の中の神様の恵み）

コリント人の信徒への手紙二 12:7-10

2023 年 11 月 4 日&5 日
スチュワート W スコット 博士

今日、皆さんに神様の御言葉をお届けできるこの機会を感謝し、また光栄に思います。何年か前に私の妻がこちらに伺っており、その時の素晴らしい祝福と皆さんとの交わりの思い出はしょっちゅう私たちの話題に上ります。

ご存じのように、私は長い間聖書的カウンセリングを教え、また個人的にも神の民に奉仕してきました。私が誰かを助けようとする時にまず聞くのは、その人が直面している問題の分野です。それは必ずしも罪だとは限りません。苦痛なこともあれば、試練であることもあります。

次に聞くのは「それを解決するために何をしたか」です。それが罪であれ試練であれ、困難であれ、それに対して何をしたかです。「関連する本を読んでみた。」という人もいれば、「人に相談してみた。」という人もいます。でも一番多いのは「祈った。」です。

次に「どんなふうに祈っているのですか。」と聞きます。一番多い答えは何だと思いますか。「主よ、この問題（どんな問題にせよ）から解放してください。」

考えてみると、旧約聖書でも私が好きなのは、神の民が救出を祈ると、神様が彼らを問題から解放してくださる話です。救われるのは個人なこともあれば、家族や全国民であることもあります。例えば、ノアは洪水から救われました。イスラエルはエジプトから解放されました。ダニエルはライオンの穴から助け出されました。これらは神様が人々を救われた偉大な例です。これは聖書全体に渡るテーマではありますが、聖書のテーマはそれだけではありません。また、神様が解放をもたらされたら、救われた人は神様に栄光を帰すべきです。でも、神の子たちの祈りへの神様の答えは、必ずしも解放であるとは限りません。

多くの場合、神様の答えは、即座の解放ではありません。むしろ私たちが、私たちを強めてくださる主の恵みを求めて主に依存し続けることです。モーセはイスラエルのリーダーになるのに 40 年待ちました。アブラハムとサラは約束された子を 25 年待ちました。ヨセフは、自分がエジプトに住むことになった理由を知るのに 13 年待ちました。健康、富、繁栄を約束する有名なカルトの偽教師たちは、信頼・依存については教えません。

私たちの神様が栄光を受けるのは、解放だけによってではありません。私たちの神様はもっと力強く偉大です。神の子たちが喜びをもってイエス様に頼り、イエス様に力を見出すことを学びながら試練に耐える中で、神様は神の子たちに恵みを与えられます。それもまた、神様が栄光を帰されるべき理由です。

皆さんの中には、とても難しい状況から脱出したばかりの方もいらっしゃるでしょう。健康面の問題だったかもしれないし、難しい人間関係だったかもしれません。大切な人の救いや、高額な経済的負担だったでしょうか。あなたは神様に問題から解放してくださるように祈り、神様は解放という形で祈りに答えてくださったのでしょう。今、あなたは喜びに満ちてここにいらっしゃることでしょう。私たちも、あなたとその喜びを共にします。あなたを難しい状況から解放するのは神様の御計画でした。あなたと共に神を賛美します。

でも私たちの中には、まだ大きな重荷を背負い、辛い困難に耐え続けている人たちもいます。何年も祈っているのに、解放されません。これは、使徒パウロの人生に見られた状況です。

コリントの信徒への手紙二 12 章を開きましょう。簡単にコリントの教会の背景を説明します。ご存じのように、この教会にはたくさんの問題がありました。数通の手紙がコリントの教会に送られています。この教会はひどくパウロを打ちのめしました。新たな問題が報告されるたびに、使者を視察に送るか、自ら赴くかをしていました。

ここではコリントから戻って来たテトスが、良いこともあったという報告をしました。罪を悔い改めた人たちがいたのです。これはとてもいい知らせです。素晴らしいことです。でも悪い知らせもありました。偽の使徒・教師がいたのです。問題は、偽使徒たちがパウロの使徒としての権威を疑ってきたことです。彼らは自らの宗教的経験を語って、自分たちが真の使徒であると主張し始めたのです。パウロは自分の宗教的経験については語っていなかったので、使徒としての権威を疑われたのです。パウロが話すのはキリストのことだけで、他の信徒達の信仰を励ますことに集中していました。

この偽使徒たちはパウロに喧嘩をふっかけてきたのです。彼らが選んだ武器は「経験」でした。パウロは自分の話はしたくないのに、コリントの教会の利益のために、自分の経験を話さざるを得なくなりました。パウロは11章で、自分が救われて以来してきた宗教的経験を語り始め、12章へと続けています。

11章でパウロは、神様がパウロに経験させたこと全てを語り始めます。困難、苦労、苦しみ、様々な試練、何度も棒で殴られ、鞭打ちにあい、瀕死の重傷で放置されたこと、船の難破等々です。

「30 誇る必要があるなら、私の弱さを誇りましょう。」（コリントの使徒への手紙二 11:30）

ここでコリントの使徒への手紙二 12:1-10 を読みましょう。特に 7-10 節に注目してください。

「1私は誇らずにいられません。誇っても無益ですが、主の幻と啓示とについて語りましょう。2私は、キリストにある一人の人を知っています。その人は十四年前、第三の天にまで引き上げられたのです。体のままか、体の外に出てかは知りません。神がご存じです。3私はそのような人を知っています。体のままか、体を離れてかは知りません。神がご存じです。4その人は楽園にまで引き上げられ、人が口にするのを許されない、言い表しえない言葉を聞いたのです。5このような人のことを私は誇りましょう。しかし、私自身については、弱さ以外は誇るつもりはありません。6もっとも、私が誇る気になったとしても、真実を語るのだから、愚か者にはならないでしょう。しかし、誇るのはやめましょう。私について見たり、聞いたりする以上に、私を買いかぶる人がいるかもしれないからです。7また、あまりに多くの啓示を受けたため、それで思い上がることのないようにと、私の体に一つの棘が与えられました。それは、思い上がらないように、私を打つために、サタンから送られた使いです。8この使いについて、離れ去らせてくださるように、私は三度主に願いました。9ところが主は、「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。10それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」

今日は、試練から即座に開放されない時の私たちの弱さと、私たちを強めるキリストの恵みについて、5つのレッスンを学びます。

レッスン1：神様の善性は、私たちの人生において、謙虚さ又はプライドが育つ土壌であることを認識すべきである。謙虚さのみがキリストを反映する心構えである。

「7また、あまりに多くの啓示を受けたため、それで思い上がることのないようにと、私の体に一つの棘が与えられました。それは、思い上がらないように、私を打つために、サタンから送られた使いです。」（コリントの使徒への手紙二 12:7）

パウロも言っているように、アラビアの砂漠でイエス様を主として、救い主として信じてからまもなく、神様は莫大な数の啓示を通して、パウロに教訓を与えました。これは神の善性によるものです。当時、この手紙が書かれた14年前、主はパウロに指示を与え、教え、体のままか、体の外に出てかは本人も分かりませんが、パウロを第三の天にまで引き上げました。なんと驚くべきことでしょう。こんな経験は他にはありません。他の11人の使徒には、そんな経験はありません。後に使徒ヨハネが、パトモス島で似た経験をしたことを黙示録に記録しています。パウロはこの経験を自慢して、「私を見なさい。私はこんなに神様に祝福されている。」と言いふらすこともできました。

神様が私たち全員に、何らかの形で良くして下さるというのは真実です。

「あなたは善い方、善いことをなさる方。あなたの掟を教えてください。」（詩編 119:68）

私たちは誰もが祝福されています。その祝福は、謙虚さが育つ土壌にもなれば、プライドが育つ土壌にもなりえます。しかし神様の善性は、いつも謙虚さを養うべきです。でも私たちが自分自身と当然受けるべきだと考える報酬に集中していると、代わりにプライドが養われてしまいます。それではいけません。

申命記 8:6-17 で、主はイスラエルが受ける祝福について教えていますが、それによって心に芽生えかねないプライドについても注意をしています。

「6また、あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩み、主を畏れなさい。7あなたの神、主は、あなたを良い地に導き入れようとしている。そこは、平地でも山でも川の流れがあり、泉や地下水が溢れている地であり、8小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろの実る地、オリーブ油と蜜の取れる地である。9不足なくパンを食べることができ、何一つ欠けることのない地であり、石は鉄を含み、山からは銅を掘り出せる地である。10 あなたは食べて満足するとき、その良い地をくださったことを覚え

て、あなたの神、主をたたえなさい。[11] あなたの神、主を忘れないようにあなたは注意し、今日あなたに命じる戒めと法と掟とを守りなさい。[12] あなたが食べて満足し、立派な家を建てて住み、[13] 牛や羊が増え、銀や金が増し、あなたのあらゆる持ち物が増えるとき、[14] 心が驕り、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出されたあなたの神、主を忘れないようにしなさい。[15] この方は、炎の蛇とさそりのいる、水のない乾いた、広大で恐ろしい荒れ野を進ませ、あなたのために硬い岩から水を湧き出させ、[16] あなたの先祖も知らなかったマナを、荒れ野で食べさせてくださった。それは、あなたを苦しめ、試みても、最後には、あなたを幸せにするためであった。[17] あなたは自分の強さと手の力で、この富を生み出したと考えてはならない。(申命記 8:6-17)」

皆さん。高慢なクリスチャンというのは矛盾しています。「プライド」と「クリスチャン」は正反対です。神様の善性は、私たちをへりくだらせます。私たちを謙虚にします。私たちの人生、また私たちが奉仕している兄弟姉妹の人生には、謙虚さが大いに育っているべきです。でもしばしばプライドが芽を出し育ち始めます。そして、栄光は自分により、自分から生まれ、自分に属すると考え始めます。賜物は自分で達成した成果であると考えます。

ですから、まず初めに学ぶべきは、「神様の善性は、私たちの人生において、謙虚さを育てる土壌であると知るべきである。しかし、時としてプライドが芽を出し、私たちの心に育ってしまう。」ということです。

レッスン2:私たちがプライドに食われて実を結ばなくなり、役に立たなくなってしまわないように、どんな時でも神様には私たちを守ってくださる完璧な治療法がある。

神様は、よりキリストの似姿に近づくために、私たちに何が必要かご存じです。

「[7]また、あまりに多くの啓示を受けたため、それで思い上がることのないようにと、私の体に一つの棘が与えられました。それは、思い上がらないように、私を打つために、サタンから送られた使いです。」(コリントの使徒への手紙二 12:7)

これは神様がパウロの人生に与えられた予防策です。神様はパウロを鍛錬しているのではありません。パウロはこれらの経験を自慢してはいません。実際、14 年経って、初めて聞く話です。パウロはプライドに惑わされて苦労していません。この棘によって、プライドに溢れないように守られていたのです。

そのように考えたことがありますか。神様が試練をもたらされた時、時には体に痛い「棘」が与えられた時、それは鍛錬のためではなく、あなたを弱め、謙虚にし、主に頼らせるためかもしれない、と。

詩編 119 篇で詩人は何と言っているでしょう。「[71] 苦しみに遭ったのは私には良いことでした。あなたの掟を学ぶためでした。」(詩編 119:71)

哀歌でエレミヤも書いています。「[32] たとえ苦しみを与えても豊かな慈しみによって憐れんでくださる。[33] 人の子らを辱め、苦しめるのは御心ではないのだから。」(哀歌3:32-33)また少し後に、「[38] 災いも幸いもいと高き方の口から出るものではないか。」(哀歌 3:38)とも書いています。

これが、神様が愛し育てる神の子に与えられる治療法です。この神様は、私たちに最善を望まれる神様です。だからこそ、私たちがプライドに溢れないように、時に試練を、時に体に棘を与えられるのです。私たちが神様に有効に奉仕できなくなって、実を結べなくならないように。

フィリップ・ヒューズはこの節の注釈に、「他人に見える棘・見えない棘、肉体の棘・心の棘。いずれにせよ、解放して欲しいと祈った棘は一つもないと言うキリストの使徒はいるでしょうか。しかしその棘は、その人がいつも謙虚なままでいて、実のある奉仕ができるように与えられているのです。」と書いています。

私自身、過去にミニストリーを通して関わってきた多くの人たちを思い出すと、この記述が正しいことが分かります。誰かと親しくなって、その人のことが分かってくると、棘があることに気が付きます。それは慢性的な健康の問題かもしれません。私の父にはそれが当てはまります。父は 45 歳の時に棘が与えられました。父は深刻な心臓発作を起こし、余命数か月と宣告されました。実際には父は 79 歳まで生きました。しかし父の心臓を手術することはできず、時々小さな白い錠剤を飲んでいました。他の人はミントタブレットだと思っていたようですが、実はニトログリセリンの錠剤でした。父は長年に渡って、常に狭心症による 胸痛に苦しみました。その痛みは父を弱らせ、謙虚に保ち、主イエスに頼り続けさせました。体の棘は健康の問題なこともあれば、難しい人間関係であることもあります。救われていない配偶者や子供たちかもしれません。神様の御計画は、私たちを謙虚に保ち、神様に頼らせることです。神様を賛美します。これは神様の愛であり、私たちのためなのです。

さて、神様は常に、神様の栄光と神の子の永遠の利益、そして邪な者への罰として起こる全てのことの間接的要因となっています。全てを統治する神の御手を通さずには、何事も起こりません。神様は、始めと終わり、その間に起こる全てのことを宣言されます。全ては神様のお考えと御計画に沿って働きます。神様は手近な要因を用います。神学ではしばしば「間接的要因」と呼ばれます。例えば、神様はヨセフとイスラエル全体の益のために、ヨセフの罪深い兄弟を用いました。ヨブの人生ではサタンを用いました。神様ご自身は決して罪を犯さないことは忘れないでください。でも神様は、その御意志を達成するためには、罪ある人を用い、サタンやサタンの使いさえも用いることがあります。しかし全ては常に神の子の永遠の利益と、神の御栄光を目的として計画されているのです。神様はより偉大な善のために、私たちの一時の快楽は後回しにするのです。

さて、神様がパウロの体に棘を与えられたタイミングは興味深いものです。「私の体に一つの棘が与えられました。」と過去形です。パウロはそれを 14 年前に与えられた多くの啓示に関連させて話しています。神様は、パウロに数々の啓示を与えられたすぐ後に、パウロを謙虚に保つべくこの棘を与えたのかもしれません。プライドが花咲いてしまう前に、つぼみを刈り取ったのかもしれません。パウロはこの節まで、一切このことについては触れていません。またこの試練は長期に渡って続いている試練でした。この棘はパウロを激しく打ちのめしていました。文字通り拳で打ちのめされるかのように。この棘が何であったにせよ、ひどい苦痛を伴ったことが分かります。

聖書にはパウロの棘が具体的に何だったかは書かれていませんが、パウロが自分で意図的に選んだ苦痛ではないことは分かります。また罪の問題ではなかったことも分かります。人生において罪にどのように対処すべきか、神様は私たちに指示を与えておられるからです。これは明らかに神様が与えられた試練であり、パウロはこのサタンの使いに苦しめられていました。この棘が何だったのかということについては、教会の歴史の中で 16 の病気が推測されてきました。深刻な目の病気、片頭痛、マラリア、リウマチ、ライ病、てんかんなどです。文字通り悪魔による体罰がパウロを苦しめていたと信じる人もいます。このコリントの教会でパウロが対応しなければならなかった、悪魔に取りつかれた教師たちだったと考える人もいます。何が棘だったかはわかりませんが、明らかなのは、この棘がこの手紙以前に与えられていて、長期に渡ってパウロに極度の苦痛を与えていたということです。そして、神様はこの苦痛を、パウロがプライドに満ちることがないように用いていたということです。

レッスン3：辛い試練が訪れたとき、最もよくある自然で、もっともな反応は、主に開放を願うことです。何が最もイエス様を反映することになるか、いつもはっきりしているわけではないので、解放を祈ることには全く問題はありません。

「[8]この使いについて、離れ去らせてくださるように、私は三度主に願いました。」（コリントの使徒への手紙二 12:8）

パウロは解放を嘆願しています。よくある自然な反応です。諦めずに祈り続けるのも普通のことです。パウロは真っ先に、祈りをもってイエス様本人のもとに行きました。なぜでしょう。イエス様は偉大かつ、私たちの気持ちも分かってくれる私たちの大祭司だからです。イエス様は苦痛に満ちた状況に置かれ、解放を願うのがどんなことか、知っているでしょうか。もちろんです。イエス様ご自身、ゲツセマネの園で解放を祈りました。イエス様は三回解放を祈りましたが、「しかし、私の望むようにではなく、御心のままに。」とも祈りました。パウロが解放されるように祈ったことは間違っていないし、神様もそのことを怒ってはいません。

私たちは、なんとなく人生には二通りのパターンがあるというようなことを思いがちです。神様が私たちを用いられるのなら、物事はこんな風に進むはず、というイメージがあります。

私の人生は全て順調で、問題なんてあるはずもない。経済的にも余裕がある。イエス様を知り、神様を愛する人たちに囲まれて暮らしている。健康にも恵まれている。そんな風に全て順調満帆なら、イエス様は私たちを用いられる。

一方もう一つのパターンは、人生が順調に行っておらず、長期に渡って苦難に悩まされていたり、ひどい痛みに苦しんでいたり、人間関係にひどく苦悶している時は、神様に用いられることはできないという考えです。そんな状態では神様に用いられるには十分に霊的でない。神様に用いられるには、全て順調でなければならない、と考えます。うまくいっていなかったら、あんまり役に立たないし、実も結べない。試練や「体の棘」に苦しむと、私たちはそんな風に考えがちです。

レッスン4：多くの場合、私たちの嘆願に対する神様の答えは、即座の解放ではなく、キリストへの信頼、神様の善性とその完全な御意志への依存です。神様は、しばしば長期に渡る苦しみを用いて、私たちの人生にキリストを反映させます。

「[9]ところが主は、『私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ』と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」（コリントの使徒への手紙二 12:9）

神様がこのように答えられる理由は、神様が最も用いられるのは、神を敬う不完全な人間だからです。そういった人は、自分が弱いことを知っています。そして弱く保たれることで、キリストの力を経験することができ、またキリストの力が自分の人生に反映されることで、神様に栄光が帰されることを知っています。そして、イエス様の苦難を分かち合う中で、神様の御臨在と、また神様との交わりを楽しむことができるのです。

クリスチャンの人生が弱さと苦しみの人生であると聖書を通して神様が教えているのを、私たちは忘れてしまっています。

ジェイミソン、フォーセット、ブラウンによる解説によると、「主は私たちの強さよりも弱さを必要としている。私たちの強さはむしろ神様の敵です。私たちの弱さ、主の召使は主から力を得て、主の栄光を前面に表す。」

皆さん。神様が欲しいのはあなたの強さではありません。あなたの強さは神様のライバルです。私たちは自分の弱さを捧げます。主が私たちに必要な強さを与えてくださいます。神様によって聖別されるとき、私たちは自分の弱さを捧げ、強さは神様がくださいます。栄光を受けるのは私たちではなく、神様です。

12 章から少し戻って、コリントの使徒への手紙二 4:7 を読みます。

「[7]私たちは、この宝を土の器に納めています。計り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかになるためです。」

大事なのは、主であり、私たちの弱さと試練の内にのみ完璧にされる主の力です。全ては、私たちが自分の弱さを知り、そしてキリストから力を頂けるように弱くされていることを私たちが知るようにデザインされているのです。

誰かの肖像画を描く時は、背景を目立たなくすることが必要です。美術館に行ったらよく分かります。どの肖像画も、人物がくっきりと目立ち、背景は暗めの色に抑えられています。

クリスチャンとして、私たちは背景であり、キリストが人物です。メインはキリストなのです。私たちの人生は、キリストを知らしめ、聞く人にキリストを証しすることにつきます。私たちの弱さはあくまでも背景であり、私たちが試練を乗り越えられるのはキリストの力により、それによって人々は私たちの内にキリストを見るのです。人に見えるのが私たちの力であってはいけません。人に見えるのは、キリストの力であるべきです。

9節は面白い節です。「十分」という言葉は、この文の中で強調されています。そのまま読むとこうです。 恵みだけで充分です。恵みになにか付け足す必要はありません。新たな恵みや、改良された恵みは必要ありません。神様が与えてくださる力だけで、あなたが置かれた状況に完全に十分なのです。 あなたは「とても十分とは感じられない。」とおっしゃるかもしれません。でも本当なのです。あなたがイエス・キリストに従う者ならば、あなたの状況に応じた恵みが必ずあるのです。

神様が私たちに恵みを与えられ、私たちが神様に信頼すると、たくさんのことが起こります。神様の愛と超自然的な助けを体験することになります。私たちの内に、キリストに似た性質が形成されます。キリストの力が私たちの内に見られ、私たちの内で体験できます。試練の最中にあって神を賛美することは、自然なことではありません。ヨブが「主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」と言ったように。その時、人は私たちの内にキリストの力を見るでしょう。

清教徒の牧師であり、「The Crook in the Lot（人生の試練）」の著者トマス・ボストンとその妻は、様々な病気に苦しみました。ボストンの妻は、病気以外にもたくさんの悲劇に苦しみました。10 人生まれた子供の内、6 人は小さいうちに亡くなりました。ボストンは「主よ。どうか私たちをこの延々と続く苦難から解放してください。」と祈りました。それからコヘレトの言葉を読みました。

「[13] 神の業を見よ。神が曲げたものを誰がまっすぐにできよう。[14] 幸せな日には幸せであれ。不幸な日にはこう考えよ。人が後に起こることを見極められないように神は両者を造られたのだ、と。」（コヘレトの言葉 7:13-14）

ボストンは人生に起こることの全ては神様が管理している、と学びました。すべては神様のなさっていることです。神が曲げたものを誰がまっすぐにできよう。でも私

たちは、しばしばまっすぐで平らな道を祈り、痛みがないように祈ります。でも神様の御計画は、私たちをよりキリストに似た者とし、より神様に依存するようにすることです。イエス様は「悲しみの人」であり、「嘆きを知り尽くした人」でした。 ボストンは犯罪を犯す人がいれば、それ相応に対処しました。変えられることは変えればいい。しかし変えられないことがある時、それが与えられた棘である時、それは神様の御計画であり、私たちにはどうすることもできないのです。へりくだって受け入れる以外には。忘れないでください。「人生の試練」です。神が曲げたものを誰がまっすぐにできよう。神様がなさったことです。神様に人生を手渡して、完璧な仕事をしていただきましょう。

もう一つの良い例は、ジョニー・エリクソン・タダです。

10代の時に、誤って浅瀬に飛び込んだ結果、四肢麻痺となってしまいました。彼女も解放を願い、麻痺を癒されるよう祈りましたが、それは起こりませんでした。そして彼女は祈りました。「主よ、この試練に耐えられるように助けてください。」しかし、これは、クリスチャンではなくても、殆どの人がよく目標とすることです。そこで聖書のこの部分を読んだ後、ジョニーは成長し続けるクリスチャンとして、ただ試練と辛い状況に耐える以上のことをしなければならない、という結論に達しました。ご存じの方もおられるでしょうが、ジョニーは喜びをもって人生を大切に生き、どこにいっても神様に栄光を帰し、神の力に信頼しています。ジョニーがよく言う言葉に、「神様は、愛することを成し遂げるために、憎まれることをお許しになる」というのがあります。

私はこの言葉をさらに強調して、神様は定められる、とまで言いましょう。単に憎まれることを認めたり、許可するのではなく、神様が全てをデザインし、起こるように定めるのです。(エフェソの信徒への手紙 1:11) 最後のポイントです。

レッスン5：神様の途切れることのない恵みへの私たちの反応は、神様の御意志を喜んで心から受け入れることです。自分の弱さとキリストの強さに頼ることによって、キリストを反映することを決心します。イエス様という存在そのもの、イエス様の御性質、イエス様が与えてくださるものは、私たちを苦しめている全てを凌ぎます。それが本当の満足です。キリストに何も足さなくても満足できるのです

「[9]ところが主は、『私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ』と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。[10]それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」(コリントの信徒への手紙㈡12:9-10)

弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりといった、パウロが述べたどの状況にも関わらず、です。4章でパウロはありとあらゆる災難に苦しめられても滅びない、と言っています。

パウロはキリストの命の内に、キリストの力に頼っているのです。パウロは2回、4章の初めと終わりで、「私たちは落胆しません。」と言っています。これが、イエス様に目を留め、イエス様を知り、イエス様の苦しみを分かち合い、イエス様の復活の力を経験した時の反応です。私たちも同じようにできるのです。

もしかすると「解放してください」という祈りから、「あなたに依存できるようにしてください。」という祈りに変える必要があるかもしれません。それが、あなたの内側にキリストの御性質を形成することにつながるからです。自分が弱く、また弱く保たれているのだと分からされることです。この試練、終わることのない苦痛に満ちた試練は、障害物ではありません。それは経路です。「でもこの試練から解放してくれたら、もっと有効に神様に仕えられるのに。」、と思うかもしれません。実は3つ目のパターンがあるのです。「棘を取らずに、神様に最大限に有効になり、神様に最大限に栄光を帰しなさい。」

ジャン・カルヴァンは言います。「私たちの弱さは、神様がその力を私たちの内に完璧にするための障害となっているように思えるかもしれない。パウロもこれは否定していないが、その一方、神様の力が滞りなく完璧にされるのは、私たちの弱さが明らかになった時だと一貫して言っている。」

マッカーサー博士「信徒が万策尽き、自信を無くし、力尽き、もう神様以外には頼るところがなくなって初めて、彼らは神様の御計画に最も役立つ状態になる。」とコメントしています。

パウロもコリントの信徒への手紙二 6:10 で言っています。「悲しんでいるようでいて、常に喜び、貧しいようでいて、多くの人を富ませ、何も持たないようでいて、すべてのものを所有しています。」

悲しみか喜びか、どちらか一方ではありません。私たちの大多数にとっては、ある程度の悲しみがあり、でも同時にいつも主における喜びがあるのです。

意図的に深くじっくり考える

クリスチャンではない皆さん。神様は言っています。

「悪しき者には痛みが多い。主に信頼する人は慈しみに囲まれる。」(詩編 32:10)

あなたの痛みや苦しみは、あなたが謙虚になり、神様に反する罪から悔い改め、神様のみを救い主として頼り、キリストを人生の主として従うようになる中で、あなたをイエス・キリストの元に導くのです。

クリスチャンの皆さん。これから挙げる6つの点をよく考えていただきたい。深くじっくり考える時、集中すべき点です。

1. 人生で経験した神様の恵みを思い出しましょう。神様はどのようにあなたに良くしてくださいましたか。クリスチャンなら、ありとあらゆる霊的な祝福を、キリストにおいて経験してきたでしょう。実は地獄以外は全てが祝福です。素晴らしい家庭で育った、素晴らしい伴侶と結婚している、神の御性質に溢れいつでも自分のためにそこにいてくれる両親がいる、家族の一員のように感じられる素晴らしい教会がある、等々人生に与えられた、神様の恵みを思い起こしましょう。神様の善性は、あなたを謙虚にしていますか。それともむしろプライドが芽を出して、生え茂っていますか。もっとキリストのことを考えていますか。それとも自分のことに集中していますか。

2. 神様はあなたの身体に棘を与えられましたか。物理的な痛みを伴う病状、苦しい人間関係、あるいは経済的困難でしょうか。神様があなたに棘を与えられたのは、あなたをプライドから守るためでしょうか。もし、そうなら・・・

3. あなたは恵みの座の上に留まっていますが。慈悲と、時宜に適った助けを求めて、恵みの座の元で生きていますか。休むことなく、祈っていますか。

「16 それゆえ、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に適った助けを受けるために、堂々と恵みの座に近づこうではありませんか。」(ヘブライ人への手紙 4:16)

4. 希望をより確かにしてくれる約束に集中して深くじっくり考えていますか。私たちの苦しみは、キリストの苦しみの内に私たちをキリストの元に導くはずです。あなたの希望を確固たるものにしてくれる約束は何でしょう。**ローマ8章**は約束に溢れています。**コリントの信徒への手紙二4:16-18** は、**「外なる人が朽ちても、私たちの内なる人は日々新たにされることができる」**と約束しています。**ペトロの手紙一 1:13** はどうでしょう。近づいているキリストの再来に集中するのです。よりキリストに依存するために、しっかり掴んでいられる希望に集中して深くじっくり考えましょう。

5. 自問してください。「この試練は、どのように私をイエス様に近づけられるだろうか。神様は、どんなキリストの性質を私の内に育てようとしているのだろう。神様は、この困難を通して、私がもっと人の気持ちが分かるように、もっと謙虚に、もっと喜びに満ち、もっと感謝に満ちた人になるようにしてくださっているのだろうか。神様は、私を我慢強くしようとしているのか。それならば、この終わりの見えない困難は、どのように私をイエス様に近づけるのか。神様は、どんなキリストの性質を私の内に育てようとしているのか。

6. 最後に、苦しみの最中にあって、同じように苦しんでいる他の人たちをどのように愛し励ませるだろうか、と考えてみてください。これはちょっとおかしく感じるかもしれませんね。自分はとても辛い困難に苦しんでいるのだから、他の人のほうが、私を助け、私に奉仕すべきではないのか。でもイエス様は十字架の上で、他の人のことを考えておられました。パウロはしょっちゅう監獄に囚われていましたが、信徒たちを励ますために手紙を書いていました。自分自身が痛みを感じていながら、同じように苦しんでいる他の人に手を差し伸べるとき、その人の人生にイエス様が最もはっきり見えるようになるのです。

妻と私は、ジョニー・エリクソン・タダにお目にかかる機会がありました。彼女は私たちの人生に大変興味をもってくれました。ジョニーに会ったことがあったら、彼女がいつも歌い、喜びに満ちているのをご存じでしょう。ジョニーに「私のために祈ってくれますか」と聞かれたので、私は「もちろんです。光栄です。特に祈ってほしいことは何ですか。」と答えました。彼女は、「私は慢性の痛みと共に生きています。」と言いました。痛みのことを私は知りませんでした。彼女に痛みは見えませんでした。私が彼女に会った時に見たのは、他の人に手を差し伸べる、彼女の内のキリストの姿でした。実際にこれを体現している人を見るのは、なんと喜ばしいことでしょう。

ですから、即座の解放を経験して、喜びに満ちている方がいらしたら、もちろん私たちは共に喜びます。私たちは、喜ぶものと共に喜び、泣くものと共に泣きます。でもここにいるほとんどに人には、何らかの棘が今あるのではないかと思います。そして、私たちはその試練の最中にあって、神を賛美しなければいけません。神様はその棘を、私たちの益と神の栄光のために意図的に与

えられたからです。神様は私たちが神様に依存することを求めておられ、あなたの弱さの内に、私たちを力づけるキリストの恵みを経験して欲しいのです。それは神の栄光と、あなたの永遠の利益のため、あなたが謙虚になって有効に神様に用いられるように、そして他の人の利益になるように、です。

祈りましょう。

天のお父様。御言葉を通して私たちに働いてくれる聖霊に感謝します。困難で、終わらない辛い状況におり、何度も解放を祈っても助けられていない人たちのために祈ります。主よ、あなたの御計画は即座の解放ではなく、あなたとあなたの力への信頼・依存なのかもしれません。神様は、私たちに、自分が弱いこと、弱く保たれることが必要なのを知ってほしいのです。それによって私たちの人生にあなたの力が反映され、その力を体験できるようにしてください。愚痴をこぼしたり、不平を言ったり、解放を要求したことを許してください。イエス様のように「私の望みではなく、御心のままに。」と祈れるようになりますように。どんな時にも十分なあなたの恵みをありがとうございます。あなたの恵みは今の私の状況に十分です。この真実に、あなたを賛美します。

「[20] 私たちの内に働く力によって、私たちが願い、考えることすべてをはるかに超えてかなえることのできる方に、21 教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々にわたって、とこしえにありますように、アーメン。」(エフェソの信徒への手紙 3:20-21)

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール: cc@tokyobaptist.org
もしくは: https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg4523jp

★クラス 101
TBC の教会員になるためのクラス
11月12日(日) 1:00pm - 5:00pm
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長するには
11月 26 日(日) 1:00pm - 5:00pm
参加条件: クラス 101 を修了した TBC 教会員

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu